

社会福祉法人青空

令和6年度 事業計画

1. 事業計画

(1) 職員の働きやすさの向上と ICT 機器の活用

団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年を目前に控え、保育・高齢者部門ともに今後も人材の確保や教育が重要で緊急の課題となっている。職員が働きがいを持ちながら、より働きやすい環境が創れるよう、以下の取組をすすめていく。

- ① 法人理念の明確化と浸透
- ② ICT 機器の活用による業務の効率化の推進
- ③ 円滑なコミュニケーションのできる土壌づくり
- ④ 人事評価制度の見直しと運用
- ⑤ 教育や研修制度の役割分担と実施
- ⑥ 労働環境の改善や福利厚生の実施

保育園・デイサービスではすでに導入済みであった ICT 機器だが、有料部門では補助金を活用して昨年度導入を行った。ICT 機器の適切な運用により、業務の効率化を図り、職員の負担を軽減することで働きやすい職場づくりを目指す。また、運用により確保できた時間を園児や利用者の適切なケアのために有効活用していく。

(2) 健全経営への貢献

各セクション共に昨年度の稼働率が大きく下がっている。健全経営し法人の運営を継続していくために稼働率を上げていくことは大きく重要な課題である。

保育部門では待機児童の受入れを円滑に行い園児数が定員に満つるよう人員の確保や定着に向けた取組を強化する。

シニア部門では自施設の特徴や強みを利用者に適正に伝えられるよう定期的な広報活動について相談員を中心に行うと共に、施設の特色やケア内容の充実についての施策を検討・実施する。

(3) 人材育成と組織風土の形成

経営層・中間管理職の人材の育成に力を注ぐ。経営を担う人また中間管理職が現場に及ぼす影響力は絶大であることを認識し、それぞれのコミュニケーション能力（共感力）や自己内省力を高める研修を行う。また、保育部門では主任・園長・理事長、シニア部門は主任・施設長で2か月に1度以上、到達できた目標や経営上や運営上の課題、早急に取り組むべき課題等優先順位について確認し意見交換、情報共有できる場を持つことで、それぞれに期待された役割を明確化していく。

(4) 財政基盤の安定と透明性

昨年に引き続き、20年先を見据えた修繕費用についての積み立てができるよう、各セッションでの積み立てを実施する。

毎月会議で各セッション主任に経営状況を伝え、情報や課題を共有する。

2. 年間稼働率目標

年間受入人数上限 稼働日数/100%稼働数	保育園 352日(土:48、日:49、祝:15) 30,920人	デイサービス 254日/4,572名	有料老人ホーム 365日/6,570名
稼働率目標	95%	75%以上	95%
目標受入人数 年間	29374	3429	6,242
目標受入人数 月間	2448	286	520
目標受入人数 1日	平日(255日):110名、土(48日):30名、日(49日):20名 祝日(15日):30名	13.5名	17.1名

3. 第三者評価の受審

今年度、有料老人ホーム又はデイサービスセンター青空どちらかが受審